

## 平成 17 年度 事業報告書

### 【活動状況及び成果】

平成 8 年の結成以来、春の植樹デー、夏の草刈デー、秋の観察デーを実施し、植樹地に集まり、「足尾の山に緑を、渡良瀬川に清流を」をモットーに、各種の事業をしています。

植樹デーは、参加者が年々増え、初年度には 160 人で 100 本の苗木を植えましたが、平成 17 年度は 1,100 人で 4,500 本を植えるまでになりました。これまで 10 年間で、約 2.5 ヘクタールの地域に、参加者延 5,710 人が 26,200 本の苗木を植えたこととなります。

草刈デーと観察デーは、苗木の周囲の除草や、鹿の食害除けネット張り、生育状況の観察などを行っています。

さらに、8 月には足尾グリーンフォーラムを開催、講演会、シンポジウム・パネル展示のほかに各種イベントを行い、さまざまな課題を検討するとともに、参加者相互の交流を深めています。

一方、足尾での体験植樹を希望する小中学校や各種団体も年々増え、今年は 114 団体の参加がありました。平成 8 年から延 518 団体が訪れ、そのほとんどの団体に植樹指導してきました。全国的な環境保護世論の高まりの中で、次代を担う子どもたちに環境保護の大切さを訴えるのに、足尾ほど適したところはなく、体験植樹はますます増えていくと思われます。

こうした参加者の増加、体験植樹の増加とともに、樹木の成長が顕著となってきました。初年度に植えた苗木は 2~3m となったものもあり、夏の草刈はたいへんな労働量となってきました。ハチやトンボなどの昆虫も見られ、鳥の鳴き声も聞こえてくるようになりました。これらは、確実に活動の成果であり、自然の回復の兆しといえます。

また 10 月には、前身団体「わたらせ川協会」の意志を継承し、足尾環境資料室を開設しました。収集して仮倉庫に保管していた各種文献を移管し、「足尾銅山と足尾町」「環境問題と緑化事業」など、一般書籍や雑誌など約 2,000 点を公開しています。

### 【今後の展開】

参加者の増加と活動内容の拡大に対し、組織的にはスタッフの補充や財政の確立などを図る必要があると考えています。また、植樹地の確保が不可欠であり、関係機関との連携を強化し、官民協働社会の構築に努めていきます。

足尾の山々が鬱蒼としたかつての森林を取り戻すには、まだまだ気の遠くなるような歳月を必要とします。継続していくことが大切だと考え活動していきます。

## 特定非営利活動に係る事業

### 1 足尾ダム周辺の荒廃地緑化事業

#### 第 10 回 春の植樹デー

実施日時：4 月 24 日(日) 9 時～13 時

実施場所：足尾町松木地区「大畑沢緑の砂防ゾーン」(国土交通省管理地)

参加者：1,100 人 植樹本数：4,500 本

参 照：植樹デーチラシ・実施要項・育てる会通信 5 号(以下、通信 5 号) 1 P

#### 夏の草刈デー

実施日時：7 月 18 日(日)

実施場所：足尾町松木地区「大畑沢緑の砂防ゾーン」

参加者：110 人

参 照：通信 5 号 2 P

#### 秋の観察デー

実施日時：11 月 13 日(日)

実施場所：足尾町松木地区「大畑沢緑の砂防ゾーン」

参加者：110 人

参 照：通信 6 号 5 P

### 2 講習会、研修会等の開催事業

#### 第 6 回 足尾グリーンフォーラム

実施日時：8 月 28 日(日)

実施場所：足尾町松木地区 銅親水公園及び環境学習センター

参加者：200 名

内 容：

##### ○午前の部

松木山腹工の見学、体験植樹、足尾焼陶芸教室、魚のつかみ取り大会、福引き大会、足尾銅チームの和太鼓演奏、パネル展示、足尾特産品・物品販売、炭焼き実演、粘土団子作り、かみねっこん作り、3D 体感シアター自然災害体験

##### ○午後の部

・基調講演 立松和平「生き方の応援」

・グリーンシンポジウム「緑化活動とふるさと回帰運動」

コーディネーター：若林治美氏(下野新聞社論説委員長)

パネラー：立松和平氏(作家・当会顧問)

：高橋 公氏(100 万人のふるさと回帰支援センター事務局長)

：神山勝次氏(足尾町長・当会顧問)

コメンテーター：神山英昭会長

参 照：フォーラムチラシ、プログラム、通信 5 号 3 P

### 3 体験植樹支援事業(その他の事業に係る事業、1)にまとめて記載。

### 4 関係文献の収集事業

#### ・足尾環境資料室開設

住 所：足尾町松原 2 - 9

内 容：足尾銅山が生んだ「光と影」の部分や地域文化、鉱山の歴史など、渡良瀬川流域や日本の社会経済文化に影響を及ぼした関係文献などを管理運営する民間施設を造ろうという、前身団体「わたらせ川協会」の意志を継承し、収集して仮倉庫に保管していた各種文献を資料室に移管しました。平成 17 年 10 月 1 日にオープン。資料室では「足尾銅山と足尾町」「環境問題と緑化事業」など、一般書籍や雑誌など約 2,000 点を公開しています。

参 照：通信 5 号 5 P

## 5 会報等出版物の発行事業

10月 育てる会通信 第5号 発行

## 6 調査研究、情報収集及び提供事業

- ・ ホームページで活動を紹介 アドレス変更しました  
「足尾に緑を育てる会ホームページ」<http://www.ashio-midori.com/>

## 7 その他

- ・ 6月24日 第20回栃木県自然保護功労賞受賞  
主催：日本野鳥の会栃木県支部・読売新聞社
- ・ 9月10・11日 今市ボランティア・市民活動フェスタ2005に参加  
主催：今市市社会福祉協議会
- ・ 12月11日 ヨシ刈りデーに参加  
主催：わたらせ未来基金
- ・ 1月27・28日 エコテックとちの環2006に参加  
主催：栃木県地球温暖化防止活動推進センター・とちの環県民会議・栃木県

## その他の事業に係る事業

### 1 体験植樹支援受託事業

#### 体験植樹

実施日時：4月～11月

実施場所：足尾町松木地区

参加者：114団体（業務委託79、育てる会29、国交省4、団体独自2）

植樹本数：4,157本

内容：「公害の原点」の地で自らの植樹体験を通して広く環境問題を考える、こうしたコンセプトでの体験植樹の希望が急増し、今年も昨年の104団体を超え114団体の参加がありました。国土交通省よりの業務委託として当会が対応したのが79団体。パンフレットの送付、道具の準備、歴史や植え方の説明、植樹指導、後片付け、アンケートの集計等の作業をしています。育てる会受付は29団体。前記作業に加え受付、場所の確保をしています。

植樹は、山腹基礎工という山肌を植樹のできる状態にする工事の後に実施します。希望者の急増により、安全に植樹できる場所の確保が難しくなってきました。育てる会は基本的に小さな苗木を1人1本植える方法ですが、広い場所が必要となります。国土交通省では、20人ほどで1.5mほどの木を1本植える方法をとっています。今後増えることを考慮し、学校等には業務委託での体験植樹をお願いしています。

参 照：通信5号4P、通信6号4P

### 2 物品販売事業

- ・ 書籍販売：「よみがえれ、足尾の緑」「足尾の緑」（会報）等を販売
- ・ ビデオ：「よみがえれ 足尾の緑」を販売 参照：宣伝チラシ
- ・ Tシャツを販売